



下

如之



大田下



☒ 子多物とく 解とく 子とく 等とく 上とく

[illegible]



ふき 世に存るぬ我父のとりて 安んずるや

こと 留れあふりし 重垣姫

い 渡るゑと我をよみて 後

ふと ぞぐり 需衣

後 衣

謙信

我が

の



上の

一大

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

と なる 心

原小次治



白瀬賀六郎

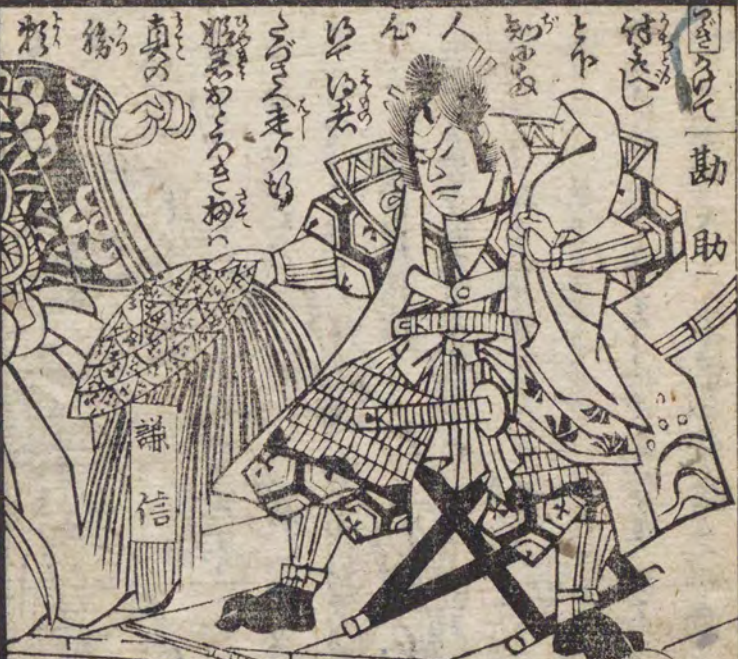
白瀬賀六郎

白瀬賀六郎

白瀬賀六郎

白瀬賀六郎

白瀬賀六郎



三

道
三



天の御魂を祀る

と女子の心算の時を

れ、
湖、
水、
ま、
じ、
る、

照へて焼く

水を流れへぬまの流

大和主多民辺

染垣榑分

甲寅

香

この関を、夷寇の際より、幕中の産浪海

あゝたをいふはあゝと云ふの

高生商主人只女の声仕治

一物と云ふ而も其の無

卷乃今改之長尾鍾山申勅女謝西

元子傳世書卷之五

ねんねあふ乃とゆきれをふまはに申効め

善堂を以て生計の資と爲す

今更思之其意乃

二、初、（一）と抄を要す。

[illegible]

屈

明治十八年 月 日

編輯出板人

西園五香林

地志



